

加古川市SC (兵庫県)

# 経験豊かな会員が保育で貢献

おばあちゃんの家へ行ったような家庭的な雰囲気の中で、きめ細かな保育を行っている。子どもたちから元気をもらいながら、次世代につながる地域貢献を展開中だ。



加古川市SCでは、独自事業として「たんぽぽ保育園」を運営している。預かる子どもの対象は0～2歳児で、定員は12人。保育士15人と栄養士2人、調理師1人は、ほとんどがセンターの会員たち。「おばあちゃんの家へ行ったようなほっこり、ほっとする保育園へ」をコンセプトに、子どもの個性に合わせた関わりを心掛けている。写真は、保育士が手作りした人形を使ったお話遊び「こぶたたぬきつね」。みんなニコニコ楽しく過ごしている

公益社団法人加古川市シルバー人材センターでは、「たんぽぽ保育園」を独自事業として運営。閑静な住宅街の一軒家をセンターが借り、保育園として活用している。

**おばあちゃんの家へ行ったような家庭的な保育園**

たんぽぽ保育園は、平成二十六年四月に無認可保育園としてスタート。平成二十七年十月に認可保育園となった。現在は、小規模保育事業所「A型」といい、保育所分園やミニ保育所に近い類型で運営している。預かる子どもの対象は〇～二歳児で、定員は十二人。

代表を務めるのは、加古川市SCの市村裕幸理事長。職員は十五人(園長、主任保育士二人、保育士十二人)のほか、栄養士二人、調理師一人があり、十八人中十三人が会員である。

井尻玉子園長は、「おばあちゃんの家へ行ったような家庭的な雰囲気の中で、一人一人の子どもの個



たんぼぼ保育園（写真上）は、空き家となっていた一戸建てをセンターが借り、活用している。園庭には遊具や砂場はもちろん、子どもたちが自然と触れ合えるように花や野菜を植えており、保育士が庭の手入れを行っている（写真右上）



保育園の裏庭で、タマネギを収穫する子どもたち。このほか、サツマイモなどを育てており、みんなで収穫することで食育保育につなげている



保育士が持参したザリガニの観察（写真上）をしたり、夏には水遊び（写真下）をしたり、園庭には子どもたちの成長に欠かせない楽しい遊びがいっぱい



### 高い理念の保育方針

性に合わせた関わりを心掛けていきます。経験豊かなベテラン保育士が、自分たちも子どもたちから元気をもらいながら、子どもたちの笑顔を絶えない育児を支援していきます。また、職員が子どもたちよりも多く、運動会やバス遠足もマンツーマンで関わられるので、保護者の皆さんに安心して見守っていただいています」と話す。

井尻園長は以前、市立保育園の園長を務めていた。定年退職後、加古川市SCの保育園事業に立ち上げ時から携わっている。

保育方針は「信頼できる大人に無条件に愛される経験から、人への信頼感を育む」「五感を使ったさまざまな経験を通して、豊かな感性と表現力を育む」「子どもの興味関心に応じた活動を通して、自分の頭で考える力を育む」の三つ。

園舎の周りには砂場や畑があり、毎日外遊びができる。また、年間



優しい笑顔の保育士に見守られながら、足を伸ばしたり（写真上）、腕を広げたり（写真右）。室内遊びでも、子どもたちは元気いっぱい！



写真上は汐田裕子さん、写真下は水田香代子さん

たんぼ保育園の保育士は、15人中11人が加古川市SCの会員。写真上から、時計回りに北野一美さん、来栖明美さん、山本弘美さん。子どもたちは遊び疲れて、おいしい給食を食べてお腹もいっぱい。そろそろお昼寝の時間です



「たんぼ保育園では、毎日、おいしそう、おいしいね、おいしかった、と食べることを大切にしています」と井尻園長は話す。

室内では、保育士が常に一人または二人の子どもに寄り添い、絶えず話し掛けている。ピアノを弾

取材に訪れると、食育遊びを行っていた。これは、給食の先生に「今日の給食は何ですか？」と毎朝聞くことで、子どもたちが食材の名前を覚えて興味を持ち、給食を楽しむにして健康な活動をできるようにとの工夫である。

行事も豊富で、節分や七夕といった季節のイベントのほか、タマネギやサツマイモの収穫、バス遠足、誕生日会などを実施。身体計測や避難訓練は、毎月行っている。

保育園の一日は、絵本の読み聞かせやリズム遊び、散歩のほか、給食、朝と三時におやつの時間がある。午睡時には、〇歳児は五分ごと、一・二歳児は十分ごとに保育士が睡眠チェックを行っている。



「おいしい給食、いただきます」。たんぼぼ保育園では、おいしく食べることを大切にしている。毎日、みそ汁も付いており、栄養満点。食材に興味を持てるよう食育遊びの時間も設けている。写真上は、調理師の橋本久美子さん



調理師が手作りした特製バースデーケーキで祝う、誕生日会。子どもの誕生日当日に祝うことができるのは、小規模保育事業所ならではの、みんなからの「おめでとう」の言葉に、本当にうれしそうな笑顔を見せてくれる



「隣のアパートが火事です」。毎月行っている避難訓練で、子どもたちは命の大切さを学んでいる

### 子どもを守るためには 自分たちの健康管理も大切

常に、子どもたちを飽きさせないようにと気を配る保育士の方が疲れてしまうのではないかと心配になるが、一様に「子どもたちから元気をもらっています」と話す。保育士の栗栖明美さんは「自分の健康管理も大切です。体力がないとすばしっこく動く子どもについていけなくなります」と微笑む。汐田裕子さんは「命を預かっていますので、子どもを守っていけるように体の維持が大切です」、北野一美さんは「朝に子どもを預かつ

いて楽しい雰囲気をつくっている保育士もおり、子どもたちは声を上げながら自然と笑顔になっていく。○歳児はまだ保育士の問い掛けに言葉で応えることはできないが、ニコニコとうれしそうに顔をほころばせ、機嫌よく過ごしている。子どもをあやす保育士の声も、代わる代わる部屋に響いていた。

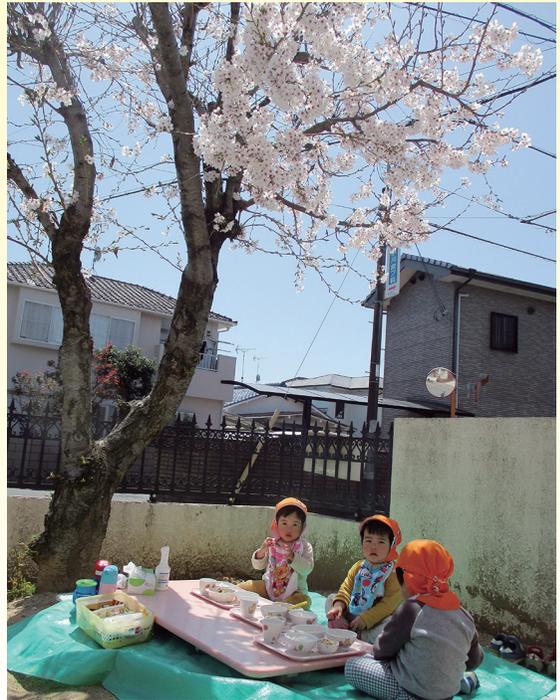
加古川市SC(兵庫県)



5月には、園庭に毎日こいのぼりを揚げている(写真上)。写真下は、日岡山公園に出掛けてのドングリ拾い。園の手作り弁当とおやつを食べて、みんな元気いっぱい



たんぼぼ保育園には、子どもたちが心待ちにする年間行事が多数ある。写真上は、赤鬼と青鬼が登場する節分の豆まき。保育士が鬼役を務める。写真下は、園庭での花見給食



て、夕方母親に無事に返すことができる」と、ホッとします」と言う。保育士の仕事は、いかに子どもたちの安全に気を使っているかが、よく分かる。

調理師の橋本久美子さんは「ミルク、離乳食など、子どもの年齢をきちんと考えて調理しなければなりません。もちろん、衛生面や消毒にも注意しています」と話す。

井尻園長は「開園時から保育士としての経験はさらに蓄積されてきましたが、年を取ってきたので体力の低下は避けられません。自分たちの健康管理も大切です」と、就業のポイントを話してくれた。

子どもには楽しく遊んでもらい、会員は子どもから元気と生きがいをもらう。シルバー人材センターの活動として、一つの理想の私たちといえるだろう。

おばあちゃん保育士たちによる地域貢献は、次世代につながる笑顔を育んでいる。

(長野 暁)